

正会員・賛助会員
代表者 各位

一般社団法人 J ミルク
会長 川村 和夫
(公 印 省 略)

年末年始需給対応緊急オンライン説明会の開催について(ご案内)

謹啓 平素はJミルクの事業に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度の生乳生産は、これまでの関係者の皆様の生産基盤強化対策により順調に推移し本年度で102%台と3年連続の増産となる見込みです。一方、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、生乳需要は期待通り回復せず、このままの消費の低迷が続くと学校給食牛乳の供給が停止となる年末年始・年度末の需給状況は、例年になく緩和すると見込まれ、場合によっては、処理不可能が発生する恐れがかなり高まると見通しております。

このようなコロナの影響を受けた緊急的な事態に対応するため、Jミルクでは、酪農乳業産業基盤強化特別対策事業に、「新型コロナ緊急対策事業」を追加し、生乳出荷抑制対策及び消費促進対策を実施することといたしました。

つきましては、酪農乳業関係者の皆様に、年末年始・年度末の生乳及牛乳乳製品の需給状況をご理解いただくとともに、新型コロナ緊急対策事業をご説明させていただき、酪農乳業の危機的状況を打破するために多くの方々にご活用いただけますよう、標記説明会を開催いたします。

ぜひ、貴会から会員等にご案内をいただき、多くの関係者の皆様にご参加賜りますようご協力をお願い申し上げます。お申込みは、ウェブサイトに掲載のGoogleフォームからお願いいたします。

敬白

記

1. 開催日程

	開催日	開催時間
第1回	2021年10月26日(火)	14:00~15:30
第2回	10月27日(水)	14:00~15:30

2. 開催方法

Zoom ミーティングによるオンライン説明会

3. 開催内容

- (1) 年末年始・年度末の生乳需給状況について
- (2) 新型コロナ緊急対策事業の実施について(生乳出荷抑制・消費促進対策)

4. 参加申込方法と手順

- (1) Googleフォームから、10月25日(月)までにお申し込みください。
<https://forms.gle/nMFtxSEzYGJvolbd9>

Googleフォームからお申し込みいただけない場合は、
①参加される日程、②ご所属・部署役職・お名前を明記のうえ、
メール(a-nishizawa@j-milk.jp)にて申込担当者までお送りください。

(2) 説明会の前日までに、ご登録いただいたメールアドレス宛に配付資料とオンライン説明会 URL をお送りいたします。説明会当日は配布資料をご準備の上、開始時間の 10 分前には、ご参加ください。

5. 参加対象者

- (1) 会員・賛助会員
- (2) 会員・賛助会員に関連する酪農乳業関係者(酪農家・乳業者・牛乳販売店等)
- (3) 行政及び酪農・畜産関連団体
- (4) 報道関係 等

6. その他

今回ご参加いただけない場合でも、説明会終了後、オンデマンド配信をさせていただく予定としております。後日、Jミルクウェブサイトにおいてご案内させていただきます。

なお、10 月 20 日付で、中央酪農会議・日本乳業協会と「年末年始の処理不可能乳発生回避に向けた緊急の取り組みについて」を発信しております。

以上

説明会のお問合せ先 TEL03-5577-7493

【説明会全般】 関 MAIL:y-seki@j-milk.jp

【お申込み先】西沢 MAIL:a-nishizawa@j-milk.jp

オンライン説明会 URL <https://j-milk.jp/news/2021kibaninfo.html>

2021年10月20日

会員各位
賛助会員各位

一般社団法人中央酪農会議
一般社団法人日本乳業協会
一般社団法人 J ミルク

年末年始の処理不可能乳発生回避に向けた緊急の取り組みについて(お願い)

直近の生乳生産については、北海道・都府県ともに好調に推移しており、10月1日に公表した「2021年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと当面の課題について」(以下「Jミルク需給見通し」)では、全国において前年比102%台で推移するものと見込まれます。なお、北海道については、今年度産の粗飼料の出来等の要因からさらに上振れする可能性もあります。

一方、生乳需要については、10月1日以降「緊急事態宣言」等の制限措置が解除されたことから、業務用需要の一定程度の回復が期待されるようですが、インバウンド需要の喪失は継続した状況にあるとともに、家庭内需要についても昨年のような巣籠需要は見られず低調に推移しております。

こうした中、年末年始の生乳需給については、飲用不需要期にある上、一部量販店における正月三が日の休業や学校給食の休止が重なるタイミングであることから、Jミルク需給見通しを踏まえると、生乳需給は大幅に緩和し、処理不可能乳が発生する恐れが例年以上に高まっています。さらに、感染再拡大によって第6波が到来し、再度休業要請等が発令されると仮定した場合には、業務用需要を中心にさらに厳しい見通しとなり、その可能性は一層強まる恐れがあります。

については、このような、直面する生乳及び牛乳乳製品の切迫した需給状況について、会員・賛助会員の皆さまに十分ご理解をいただくとともに、生産基盤の毀損に直結する減産や牛乳乳製品の市場価値の喪失を避ける観点からも、処理不可能乳発生を回避するという共通認識のもと、この局面を乗り越えるべく、ミルクサプライチェーンに関わる皆様がそれぞれのお立場で、下記のような、緊急的な取り組みの実施について、ご努力頂きますよう切にお願い申し上げます。

記

【ご依頼事項】

1. 業界共通の取り組み

酪農家・乳業者等関係者自らの牛乳利用拡大及び地域、家庭など周辺への働きかけ

※業界自らの消費拡大の取り組みとして「#1日1L」運動等を推進してまいります。

2. 生産者における取り組み

一時的な生乳出荷抑制の実施(12月下旬～1月上旬)

※早期(適正)乾乳・治療や出荷予定牛の早期(繰上)出荷、全乳哺育など、生産基盤を毀損しないことを前提とした取り組み。

3. 乳業者における取り組み

- (1) 製品における生乳使用率の引き上げ
- (2) 乳製品工場のフル稼働
- (3) 積極的な販促活動

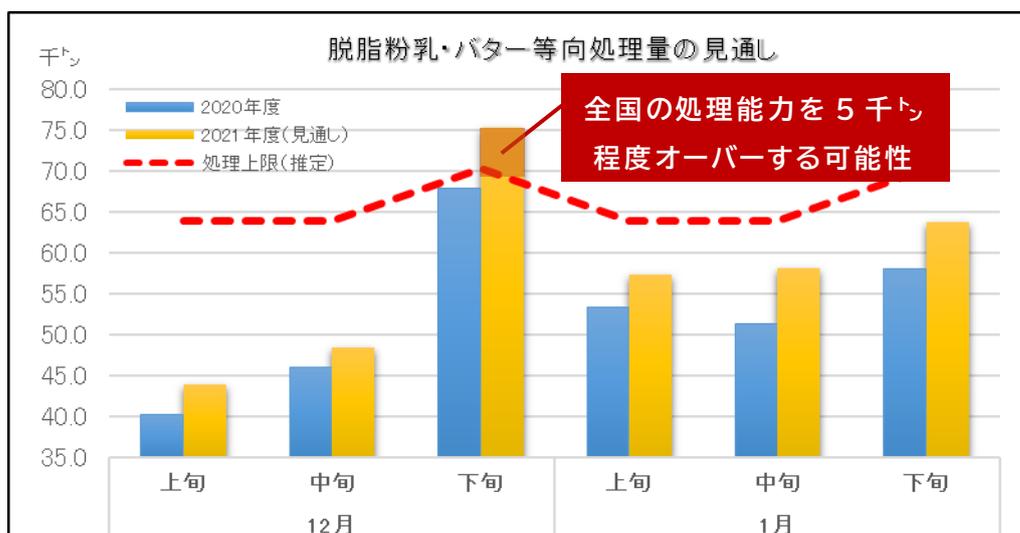
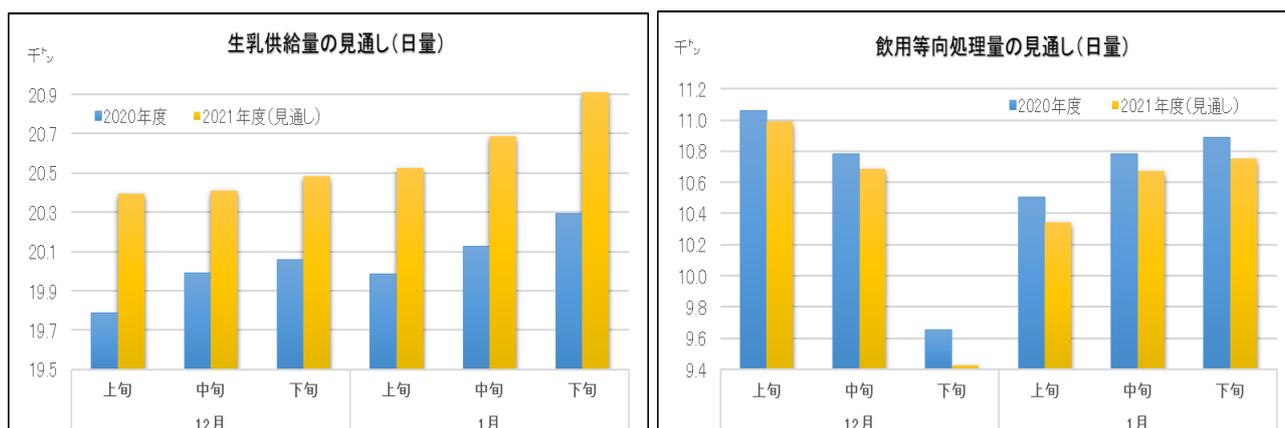
4. 指定団体・乳業者における取り組み

指定団体と乳業者が連携し、各乳業工場やクーラーステーションにおける貯乳能力のフル活用

以上

【参考】

1. 年末年始における生乳生産量ならびに処理見通し



※10/1 公表「Jミルク需給見通し」より推計

